

初夏の陽気となっています。2月には猛烈寒波と震え上がっていたが、3月の中旬に暖かくなり桜が狂ったように1週間以上早く咲いた。そして4月には真夏日となる暑さです。そんな中でも新緑の青葉が目眩しい爽やかな季節となりました。過ごしやすい季節は短いので、行楽等に楽しんでください。

4月27日に朝鮮半島において、金正恩氏は北朝鮮の指導者として初めて軍事境界線を徒歩で越え、韓国側に足を踏み入れた。午前には韓国側施設「平和の家」で同席者を交えて会談し、午後には屋外を散策する途中約40分間2人だけで会談し、その後、共同記者発表に臨んだ。文大統領は記者発表で「北朝鮮がまず行った核凍結措置はとても重要な意味がある。完全な非核化に向け貴重な出発となる」と強調した。金正恩氏は「合意が必ず履行されるよう努力する。徹底履行していくことで南北の関係を改善する」と述べ、朝鮮半島の平和と繁栄、統一に向けた板門店宣言を発表した。① 南北関係を改善し発展させることは、我が民族の様な望みであるので、アジア競技大会を始めとする国際競技に共同参加し、高官級会談を始めとする各分野の対話と交渉を早期に開催するために双方の当局者が常駐する南北共同連絡事務所を開城地域に設置する。② 南北は、朝鮮半島で尖鋭な軍事的緊張状態を緩和し、戦争の危険を実質的に解消するために共同で努力していく。③ 南と北は、朝鮮半島の恒久的で強固な平和体制の構築のために積極的に協力していく。南と北は、停戦協定締結65年になる今年、終戦を宣言し、停戦協定を平和協定に転換し、恒久的で強固な平和体制構築のための南・北・米3者または南・北・米・中4者会談の開催を積極的に推進していく。南と北は、完全な非核化を通じて核のない挑戦半島を実現するという共通の目標を確認した。非核化や平和協定の具体的なことについては直接言及しなかったが、トランプ大統領との米朝会談に下駄が預けられた格好である。歴史的に見て凄いいことが起こっている。東アジアにおいて冷戦が終結するのです。休戦協定が終戦協定に代わることでだけでも大したものである。平和へ流れ、この流れは変わらない。そうなってほしいと全世界の人が願っています。これで朝鮮半島が非核化し、平和が来るという短絡的な報道がありますが、現実にはそれほど甘いはずがありません。そもそも、北朝鮮が核を「放棄」するなど到底、考えられません。北朝鮮は段階的に削減していく方式を希望しているが、アメリカは一括妥結方式「リビア方式」です。核を含む大量破壊兵器の放棄を宣言したリビアのカダフィ大佐は殺害され、リビアは大混乱に陥ります。カダフィ大佐の最期を知る金正恩が、「リビア方式」の核放棄に応じるとは到底思えません。また、アメリカも一括妥結方式以外は受け入れないでしょう。されど、東アジアのこの地域で冷戦が戦争もなく、統一された南北朝鮮国家が実現するのは喜ばしいことです。統一の過程でお金がいることは見えています。日本は北朝鮮の資源を活用する前に、アメリカをはじめ、各国から安全保障のためと称してお金をむしり取られるのではないかと心配しています。